



3 未来に残したい“やまがた”の景観

“やまがた”には、未来に残したいすばらしい景観がたくさんあります。山形の自然、建造物、史跡、人物、行事、祭事、文化等があらわれる景観写真を広く市民から募集し、多くの作品が集まりました。そのなかから、“やまがた”の景観写真を選びましたので紹介します。

みなさんも景観の場所を訪ね、自分で写真や絵に記録してみて、“やまがた”の魅力を思う存分味わってみてはいかがでしょうか。



お地蔵さんと樹氷

災難よけ地蔵として約240年間暴風雨雪に耐え、夏は登山者、冬はスキヤーの安全を見守り続けています。冬の晴天時は見事な樹氷とお地蔵さんが姿を現します。（蔵王地蔵山頂）



駒草

蔵王山の初夏の高山植物の一つで、ピンク色のコマクサが咲き誇る風景はとても綺麗で、時間を忘れ見とれてしまいます。（蔵王山）

龍山三百坊の石鳥居

昔、山岳信仰の山として龍山に坊舎が立ち並び、「龍山三百坊」として今も語り継がれています。そのなごりの石鳥居がひっそりとたっています。（土坂）



最上三十三観音巡礼の思い

山形を離れている彼一枚の写真に思いを寄せていました。山背と朱色の御堂に雪を被り、日本一の芋煮会大鍋に山形芋煮の味を思い出していると。（釈迦堂）



そして次代へ

岩波の石行寺には、最上三十三観音の第七番札所があり、境内や借景の山々は四季折々を色鮮やかに呈します。いつもの様にお礼打ちの一行が参道を下りる頃、梵鐘が鳴り響き、子供たちが上ってきます。（岩波石行寺）





ガラス戸の紅葉

秋には紅葉や池に戯れるカモ。つつじの頃も趣ある風情に目を楽しませてくれます。隣接の清風荘では茶会が開かれ、結婚式も行われて新郎新婦が庭園を一周する様子が見受けられることもある市民の憩いの場所となっています。（もみじ公園）

山形県郷土館

大正5年旅籠町に山形県庁として建築されました。国の重要文化財で平成7年から県郷土館として開館。建物の見学や文化活動の場として講演会、コンサート、ギャラリー等広く県民に利用されています。時計塔は山形のシンボルなり。（旅籠町）



ゴジラ群

晴天に恵まれ、地藏岳の鞍部に登り、捉えた写真です。このときは、ゴジラ群が見事に見えました。山の天気は変わりやすいので直ぐ現場を離れました。（蔵王山）



不滅の勇者

最上義光の居城。春には約1500本の桜の花が咲く公園の中に、戦国武将義光像が今にも大空を翔る様子が目に浮かびます。近くに最上義光歴史館もあり、歴史と功績を伝える遺品が多く展示されています。（霞城公園）

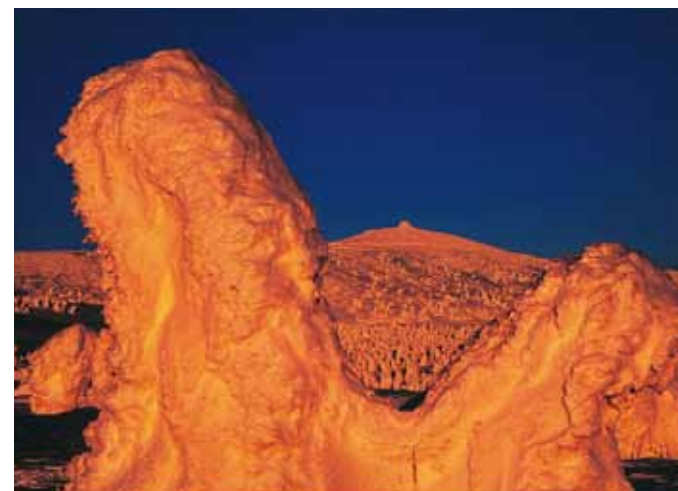


西藏王の大山桜

西行法師が「たぐいなき 思ひ出羽の 櫻かな うすくれないの 花の匂ひは」とこの地で詠んだとされます。歴史あるこの地を守り、桜の木を増やし育てる必要があります。（土坂／龍山）

津金沢の大杉

熊野神社の神木で、樹齢千年以上と推定される大杉。樹の高さ約35m、幹周り8.8mで山形県の天然記念物に指定されています。江戸末期までは、雄・雌杉がありましたが、現存しているのは雌杉でさらなる保存が必要です。（津金沢）



蔵王のモンスター

年々、地球温暖化により失われていく樹氷の姿を捉えるため気象条件の良い日を選びました。偶々天気にも恵まれ夕日に輝く姿を捉える事が出来た一枚です。（蔵王山）



みなさんも
景観の場所を
訪ねてみては
いかがで
しょうか。